

2024

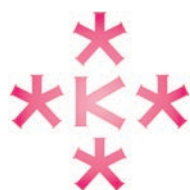
The  
Behaviormetric  
Society

日本行動計量学会

第52回大会 プログラム冊子

Program of the 52nd Annual Meeting of the Behaviormetric Society

2024年9月10日(火)～9月13日(金)



つながる力。

大阪経済大学  
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

# 日本行動計量学会

## 第 52 回大会プログラム

第 52 回日本行動計量学会大会を 2024 年 9 月 10 日(火)～9 月 13 日(金)に大阪経済大学大隅キャンパスにおいて開催させて頂くことになりました。

大阪経済大学は経済学部、経営学部、情報社会学部、人間科学部、国際共創学部の 5 学部から成る都市型複合大学です。大阪の経済界を後ろ盾に実業人養成のために開設された浪華高等商業学校を祖とし、2032 年には 100 周年を迎えます。これまでの卒業生は 10 万人以上であり、関西商圈を支える人材輩出を担ってきました。建学の理念は「自由と融和」ですが、教学の理念には「人間の実学(人間の潜在能力の開花、自立した豊かな人格形成という教育それ自体の目標と、社会の要請に応じてよりよい社会人・職業人を育成するという実践的目標とを同時に達成しようとするもの)」を掲げています。

日本行動計量学会は、最も広い意味での人間の行動に関する計量的方法の開発と、さまざまな分野への適用について研究することを目的の1つに掲げている学会です。理論的な取り組みだけでなく、大阪経済大学の教学理念と重なる「実学を視野に入れた分野適用」にも積極的な日本行動計量学会の大会を担当させて頂けることを大変嬉しく思っております。

今大会は、現地だけではなくオンラインも併せたハイフレックス形式での開催を予定していますので、遠方にお住まいの方や、全日程の参加が難しい方等にも、気軽に参加いただけるのではないかと思います。一方、現地会場となる大隅キャンパスは決して大きくはないものの、大阪梅田、新大阪、京都、神戸からのアクセスも比較的良く、使用する校舎内には、講堂、ホール、PC 教室から会議室まで揃っています。大会中のご不便は最小限に抑えることができるのではないかと考えています。

大会実行委員会は、本学の教員および学会の大会委員を中心とする学会員によって構成し、比較的恵まれた環境を活かし、大会が滞りなく実施できるようにこれまで準備を進めてまいりました。本大会を盛り立てるべく、実行委員一同、最善を尽くす所存です。

多くの方々のご参加を賜り、活発な議論が繰り広げられますことを期待しています。どうぞよろしくお願いいたします。

第 52 回大会実行委員長 芳賀 麻誉美  
(大阪経済大学 経営学部)

# 大会の概要

## 1. 基本情報

- (1) 期 間:2024年9月10日(火)~2024年9月13日(金)
- (2) 場 所:大阪経済大学 大隅キャンパス D館
- (3) 大会Webページ URL: <https://conference.wdc-jp.com/bms/2024/index.html>
- (4) 問い合わせ先:  
大会ヘルプデスク(bsj-desk@conf.bunken.co.jp)  
大会実行委員会(bms52conf@gmail.com)
- (5) 大会の構成:  
9月10日(火) 12:00 受付開始  
12:30~19:00 チュートリアルセミナー  
9月11日(水) 9:30 受付開始  
10:00~17:20 特別セッション、一般セッション  
9月12日(木) 9:00 受付開始  
9:30~11:30 特別セッション、一般セッション  
11:50~12:50 総会(ランチミーティング形式)  
13:00~15:00 ポスターセッション  
15:20~16:20 柳井レクチャー  
16:40~18:10 招待講演  
18:30~20:30 懇親会  
9月13日(金) 9:00 受付開始  
9:30~15:50 特別セッション、一般セッション、パネルディスカッション

※開催形式はハイフレックス方式(現地とオンライン)を予定していますが、感染症の蔓延や自然災害等により、全面オンライン形式での開催となる可能性もございます。変更がある場合、決定次第、大会Webページ上でお知らせいたします。

## 2. 大会までのスケジュール

- 2月1日(木) Web ページ公開
- 4月8日(月) 特別セッション(オーラル(口頭)・ラウンドテーブル)の企画募集開始
- 4月22日(月) 一般研究発表申込, 抄録原稿受付, 早期参加申込  
(チュートリアルセミナー, 大会, 懇親会) 各種開始
- 5月31日(金) 特別セッション企画募集 締切
- 6月17日(月) 特別セッション・一般研究発表 申込 締切
- 6月24日(月) 抄録原稿・著作権譲渡書類 提出 締切
- 7月24日(水) 速報版プログラムのWeb公開予定

8月9日(金) 早期参加申込(チュートリアルセミナー, 大会, 懇親会) 各種締切

8月10日(土) 大会参加通常申込(オンライン) 開始(クレジットカード決済のみ)

9月6日(金)正午 大会参加通常申込(オンライン) 締切

9月10日(火)~9月13日(金) 第 52 回大会

### 3. 参加費等

#### (1) チュートリアルセミナー参加費(1 テーマあたり)

1 テーマ あたり	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期参加費	3,000 円	2,000 円	3,000 円	6,000 円	4,000 円
通常参加費	4,000 円	3,000 円	4,000 円	7,000 円	5,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 現地での対面受講は申込順に受け付けます。講師が講演する第一教室の収容人数が上限に達した場合には、講義映像を流す第二教室に誘導する場合があります。
- 参加登録時または当日に入会手続きを行えば、みなし会員として会員料金が適用されます。
- 早期参加費は8月9日(金)までにWebによる参加申込を行い、支払いを完了された方が対象です。8月10日(土)からは通常参加費となり、支払いはクレジットカードのみとなります。

(注)8月9日(金)までにWebで参加申込し郵便振替での支払いを選択していても、8月13日(火)までに入金を確認できない場合には、早期申込は無効となります。

- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

#### (2) 大会参加費

	正会員	準会員(学生)	賛助会員	非会員(一般)	非会員(学生)
早期参加費	6,000 円	3,000 円	6,000 円	10,000 円	6,000 円
通常参加費	8,000 円	5,000 円	8,000 円	12,000 円	8,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。(チュートリアルのみ受講の場合は頒布いたしません)
- 本年度より、プログラム冊子の印刷、郵送は行いません。プログラムはWeb公開いたしますので、pdf ファイルをダウンロードしてご利用ください。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。
- 賛助会員は3名様まで無料です。担当者にメール等で連絡をいたしますので、そちらをご確認いただきお申し込みください。
- 参加登録時または当日に入会手続きを行えば、みなし会員として会員料金が適用されます。
- 早期参加費は8月9日(金)までにWebによる参加申込を行い、支払いを完了された方

が対象です。8月10日(土)からは通常参加費となり、支払いはクレジットカードのみとなります。

(注)8月9日(金)までに Web で参加申し込み郵便振替での支払いを選択していても、8月13日(火)までに入金を確認できない場合には、早期申込は無効となります。

- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

### (3) 懇親会費

	一般	学生
早期参加費	5,000 円	1,000 円
通常参加費	7,000 円	1,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期参加費は8月9日(金)までに Web による参加申込を行い、支払いを完了された方が対象です。8月10日(土)からは通常参加費となり、支払いはクレジットカードのみとなります。

(注)8月9日(金)までに Web で参加申し込み郵便振替での支払いを選択していても、8月13日(火)までに入金を確認できない場合には、早期申込は無効となります。
- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

### 4. 宿泊について

宿泊先は予約、斡旋しておりません。

### 5. 昼食について

9月12日(木)の「総会」および「ポスターセッション」参加者には、先着順で軽食をご用意します。

その他の日程については、学生会館1F の食堂または本学の周辺のコンビニエンスストア、飲食店をご利用ください。飲食店マップは現地にて配布予定です。

## 無線 LAN

キャンパス内では eduroam が利用できます。またゲスト無線 LAN も用意いたします。

## 会場の機器と発表用資料について

「口頭発表」では、原則対面方式を予定しておりますが、オンラインからの発表も可とします。

### (1) 会場での発表

液晶プロジェクターまたは大型スクリーンが利用できます。PC はご自身のものをご持参ください。ご自身の PC をインターネットに接続いただき、セッションのオンライン会議システム (Zoom) に接続し、画面共有をした上で発表してください。その際、スピーカーおよびマイクは必ず OFF にしてください。

発表者 (および質問者) は会場のマイクを利用して発言してください。会場設置の PC に接続されたマイクで收音します。

発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。オーラル (口頭) セッションで補足資料を利用する場合は、50 部程度を目安として配布プリントをご持参ください。

### (2) 遠隔からの発表

オンライン会議システム (Zoom) に接続し、画面共有をしたうえで発表してください。

### (3) 字幕・翻訳機能について

聴講者側で字幕・翻訳機能を利用できるように、オンライン会議システム (Zoom) を設定する予定です。設定方法の詳細については、別途、資料を配布する予定です。

## 一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 52 回大会の一般セッションの発表形態には「オーラル(口頭)」、「ポスター」があります。

### 【オーラル(口頭)】

一般セッション「オーラル(口頭)」の発表時間は、質疑応答を含めて 20 分です。座長の指示に従い、時間厳守をお願いいたします。「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

### 【ポスター】

一般セッション「ポスター」では、割り当てられたセッション中にポスターを掲示して発表を行い、かつ、聴衆からの質疑に応じます。研究内容についての理解が深まるように発表者は聴衆と十分な対話を行ってください。詳細については、別項目「ポスターセッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

なお、本年度の一般セッション「ポスター」では、応募学生を対象とした「スチューデントポスター賞」の審査を行う予定です。審査方法は、「総会」終了後に口頭で説明を行います。また、結果発表および表彰は懇親会で行います。

## 特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 52 回大会の特別セッションの発表形態は、「オーラル(口頭)」、「パネルディスカッション」があります。

### 【オーラル(口頭)】

特別セッション「オーラル(口頭)」は、1 セッション 120 分で、3 件以上の発表をまとめ、一つの企画として実施されます。セッションは、オーガナイザー、司会者、討論者により進行します。それぞれのテーマに沿って発表を行い、発表に関しては、フロアからの質疑応答も可能です。また、企画によっては複数セッションで実施されることもあります。

### 【パネルディスカッション】

特別セッション「パネルディスカッション」は、1 つのセッションの時間は 60 分となります。研究成果を報告するだけでなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能です。

いずれも発表形式の詳細については事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

## ポスターセッションについて

一般セッション「ポスター」は、2024年9月12日(木) 13:00～15:00に実施します。完全対面方式で行います(オンラインからの発表およびオンライン配信はありません)。ただし、状況により大会全体がオンラインになった場合はこれに準じ変更を行う場合がございます。

発表は、次の要項に従って行いますので、発表者の方は、間違いのないようにしてください。

### 【ポスター発表の成立について】

1. ポスター発表は、指定された時刻までに会場の指定されたボード位置にポスターを掲示し、発表時間中に在席し、質疑に応じることにより、正式発表とみなされます。
2. ポスター発表開始時間より、発表者の在席を順次確認します。その後も発表者の在席を確認します。
3. ポスター発表者が受付を行わずに欠席した場合、および発表時間中に在席していない場合は、「発表取消」となります。発表者の欠席、(連名発表の場合の)発表者の交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション座長にご連絡ください。

### 【ポスターの準備について】

1. ポスターはB1サイズ(728mm × 1030mm)で作成してください。ただし、ポスター掲示板(ボード)は、70mm程度のサイズ違いでも利用可能です。
2. ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印を付けてください。

### 【発表当日について】

1. 発表当日(9月12日(木))に受付で発表手続を行ってください。大会参加手続きは参加手続きとは別に行う必要があります。その際、ポスター掲示用の押しピンもしくはテープを受け取り、発表会場の指定された番号のボードにポスターを貼ってください(もし別の方法でポスターを貼り付けたい場合は、必要なものをご持参ください)。
2. 発表者がどの場所で発表を行うかは、ポスター会場にわかるように掲示しますので、確認の上、ご準備ください。
3. 当日は受付開始時間の9:00以降、貼り付けが可能です。発表者は、発表当日の12:30までに貼り付け作業を終了してください。貼り付けの完了を実行委員が確認します。
4. 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。補足資料を配布される方は、50部程度をご持参ください。配布も各自でお願いします。
5. 掲示したポスターは、ポスターセッションの座長が終了をお知らせした後、16:30までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会に取り外し、処分いたします。



## チュートリアルセミナー

日 時： 2024 年 9 月 10 日(火) (12:00 受付開始)

テーマ A: 12:30～15:30    テーマ B: 16:00～19:00

会 場： 大阪経済大学 D 館 4 階 D43 教室 (補助教室: D44 教室、D45 教室)

形 式： 対面・オンラインリアルタイム配信 (Zoom ウェビナー) のハイフレックス型

※終了後、約 2 週間(9 月 17 日(火)～30 日(月)を予定)、講義録画をオンデマンドで視聴可能。

テーマ A 「関係データ解析のためのノンパラメトリックベイズ法」

講 師： 上田 修功 先生 (理化学研究所 革新知能統合研究センター)

概 要：

関係データとは、それぞれのつながりからなるデータで、購買履歴の情報、SNS における友人の関係、さらには遺伝子発現データなど多方面におよぶ。関係データ解析の目的は、関係データからその背後にひそむ隠れた関係性を抽出することである。例えば、ネットショッピングサイトにおける各顧客がどのようなアイテムを購入したかの購買履歴データの場合、どのような人たちがどのようなアイテムを購入しているのか、すなわち、顧客とアイテムを同時にグループ化することに相当する。グループ化により、そのグループに属す顧客にそのグループに属すアイテムのなかで未購入のアイテムを推薦するなどの効率的なサービスが実現できる。この例では、技術的には、顧客とアイテムとの同時クラスタリングということになるが、クラスタ数の設定により当然結果が異なるという問題がある。

ノンパラメトリックベイズは、このようなモデル構造に対する事前分布を与え、データに応じて適切なモデル構造(上記例では顧客とアイテムの各々のクラスタ数)を自動決定可能な方法論を与えるベイズ理論である。本講義では、ノンパラメトリックベイズの基礎理論と推論アルゴリズム、さらに、関係データへの応用について分かりやすく解説する。

スケジュール: 前半講義「ノンパラメトリックベイズ法」

後半講義「関係データ解析への応用」

テーマ B 「調査における質問と回答の科学」

講 師： 木村 邦博 先生 (東北大学 名誉教授)

概 要：

調査における質問と回答の研究は 1930 年代頃にアメリカ合衆国で始まり、日本でもステレオタイプの影響やキャリーオーバー効果などに関する注意が調査法の教科書で取り上げられてきました。ただしこれらの注意は主に「経験と勘」によるものだったといえます。

これに対し 1980 年代になると、欧米を中心に「認知的視点から見た調査方法論」(Cognitive Aspects of Survey Methodology, CASM)にもとづく研究が行われるようになりました。これらの研究の特徴は、調査における誤差のメカニズムを科学的に解明し、その知識に即して調査設計を改善することでデータの質を高めようとする点にあります。

このチュートリアルではまず CASM および関連する他の研究動向(総調査誤差アプローチなど)

について紹介し、測定誤差や satisficing などの基本的な考え方について議論を行います。その上で、実験的ウェブ調査による回答スタイル研究の実例を解説するとともに、今後の展望について討論を行います。

参加者の皆さんが調査票設計において直面する課題を解決しようとする際に、参考になれば幸いです。

スケジュール:前半講義「データの質の観点から見た測定誤差と satisficing」

後半講義「実験的ウェブ調査による回答スタイル研究の実際」

## 特別講演「第 8 回柳井レクチャー」

第 52 回大会では、特別講演「第 8 回柳井レクチャー」を実施します。大会参加申込者は、無料で聴講できます。

柳井レクチャーは、2013 年に逝去された故柳井晴夫先生のご業績および学会へのご貢献を顕彰するため 2014 年 11 月 10 日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年 1 名選出し、大会時に 1 時間程度の特別講演を行っていただきます。

日 時: 2024 年 9 月 12 日(木)15:20~16:20

会 場: 大阪経済大学 大隅キャンパス D 館 1 階 D10 教室

形 式: 対面・オンラインリアルタイム配信 (Zoom ウェビナー) のハイフレックス型

タイトル: 調査的思考: 「データを生み出す創意工夫」と「限界の認識」

講演者: 松田映二 (YORONresearch / 元・朝日新聞社、元・埼玉大学)

司会者: 吉野 諒三 (同志社大学)

概 要:

2021 年衆院選では自民の勝勢を見誤る予測報道が続出。2022 年参院選の奈良選挙区では自民優勢な情勢の中で「激しく競り合う」など厳しく出た報道もあり、安倍元首相は急遽応援に駆けつけたが銃弾に倒れた。いずれも回収率が極めて低い電話調査の影響による惨事である。偏ったデータは誤った推論結果をもたらすし、無いデータを補正することはできない。「データの時代」が発展するにはデータの利用研究のみではなくデータを生み出す研究も重要である。選挙予測失敗の教訓から学び始め、データ収集における注意事項(調査的思考)を確認する。

「低回収率」時代における新しいアプローチの仕様と理論実装も必要である。有効極大化法 (EMM) を用いれば郵送調査でも回収率 8 割は可能である。郵送調査の復権は、Web 時代のデータ収集 (Web 調査) とシンクロする。どちらも調査員が介在せず質問文・選択肢を「目で見る」ため、バイアスが統制された複合調査が可能になる。「目で見る」調査のバイアスとして初頭効果が有名であり研究論文も多いが、その概念と事例は正当なのだろうか。回答行為における認知バイアスの研究を促進させる意味で、一石を投じる。

## 招待講演

第 52 回大会では、招待講演を実施します。大会参加申込者は、無料で聴講できます。

日 時: 2024 年 9 月 12 日(木)16:40~18:10

会 場: 大阪経済大学 大隅キャンパス D 館 1 階 D10 教室

形 式: 対面・オンラインリアルタイム配信 (Zoom ウェビナー) のハイフレックス型

タイトル: A review of recent developments of discrete latent variable models applied to social science data

講演者: Fulvia Pennoni ( Department of Statistics and Quantitative Methods, University of Milano-Bicocca)

司会者: 中井 美樹 (立命館大学)

概 要:

We present the class of discrete latent variable models and show how models in this class are suitable to analyze social science data accounting for unobserved heterogeneity, errors, and systematic misclassification. We present models tailored for cross-sectional, longitudinal, compositional, and network data, reviewing their parameterization and estimation procedures. We show and discuss the results of the applications.

※本講演は英語で行われる予定です。

ZOOM ウェビナーに接続した場合、聴衆側の設定で字幕・翻訳機能が利用できます。

## 総会

日 時：2024年9月12日(木) 11:50～12:50

会 場：大阪経済大学 大隅キャンパス D館1階D10教室

形 式：対面・オンラインリアルタイム配信(Zoomミーティング)のハイフレックス型

※今年度は、ランチョンミーティングとして実施します。先着順で軽食を配布する予定です。

オンライン参加の場合の接続先は、大会開催前に会員メーリングリストでお知らせします。会員メーリングリストの購読ができない場合は、大会実行委員会まで直接お問い合わせください。

## 懇親会

日 時：2024年9月12日(木) 18:30～20:30

会 場：大阪経済大学 大隅キャンパス D館8階80周年記念ホール

定員に達した場合は、予告なく受付を終了することがあります。

早期参加費は8月9日(金)までにWebによる参加申込を行い、支払いを完了された方が対象です。8月10日(土)からは通常参加費となり、支払いはクレジットカードのみとなります。

(注)8月9日(金)までにWebで参加申込し郵便振替での支払いを選択していても、8月13日(火)までに入金を確認できない場合には、早期申込は無効となります。

参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

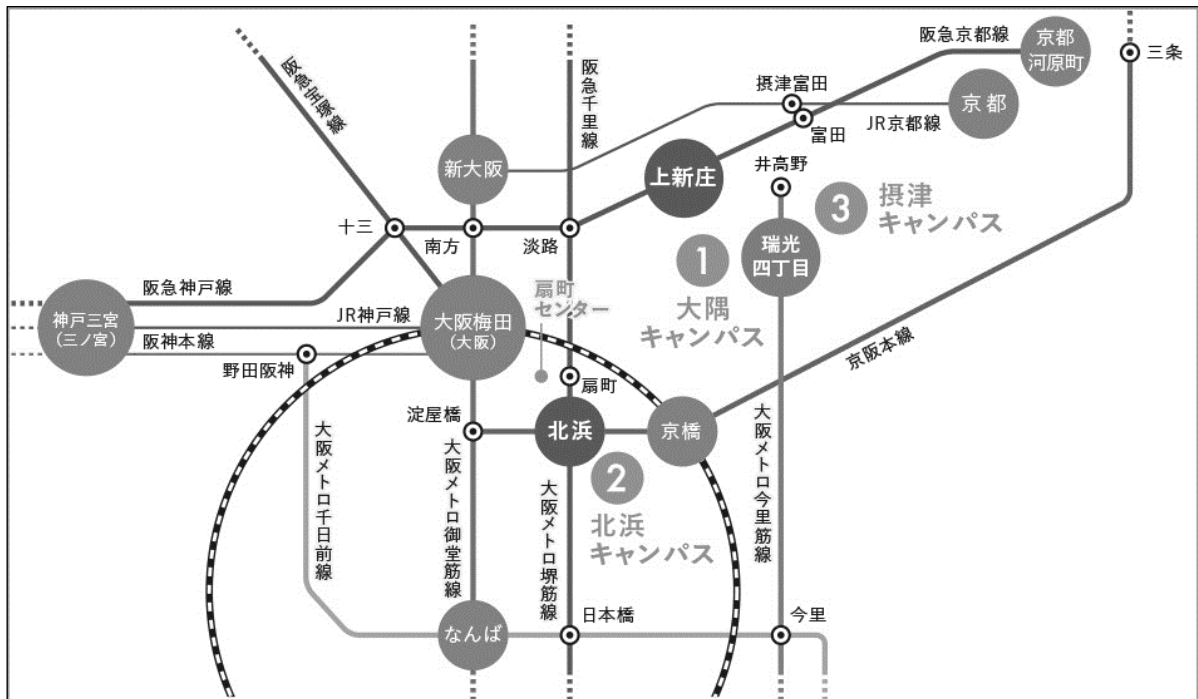
## 大阪経済大学大隅キャンパスへの交通アクセス

住 所: 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅 2-2-8

最寄り駅:

1. 阪急京都線「上新庄」駅(大隅キャンパスまで徒歩約 15 分)  
 ※大阪シティバス「上新庄駅北口」より 37 系統、または「上新庄駅前」より 50 系統【井高野車庫前】行にて「大阪経大前」下車すぐ
2. 大阪メトロ今里筋線「瑞光四丁目」駅 (大隅キャンパスまで徒歩約 2 分)

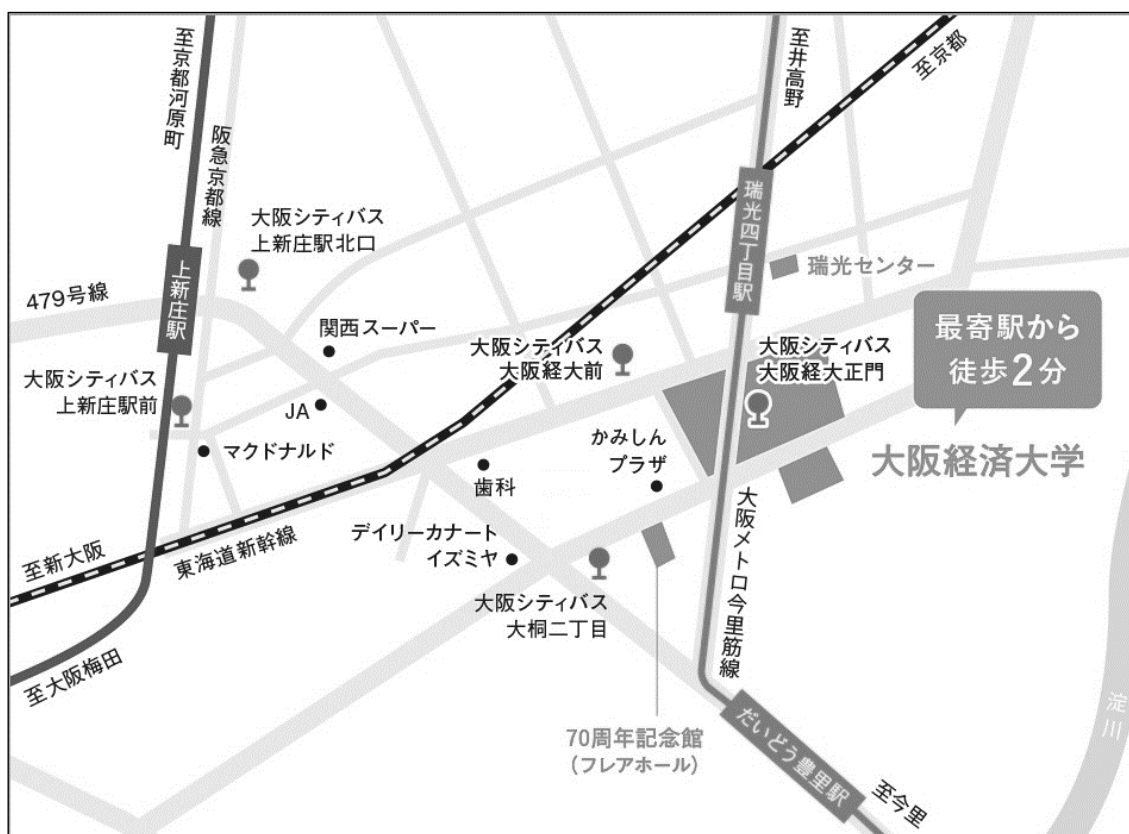
注) 自動車でご来校の場合、学内への駐車はできません。周辺の民営駐車場をご利用ください。



### 大隅キャンパスへの所要時間の目安

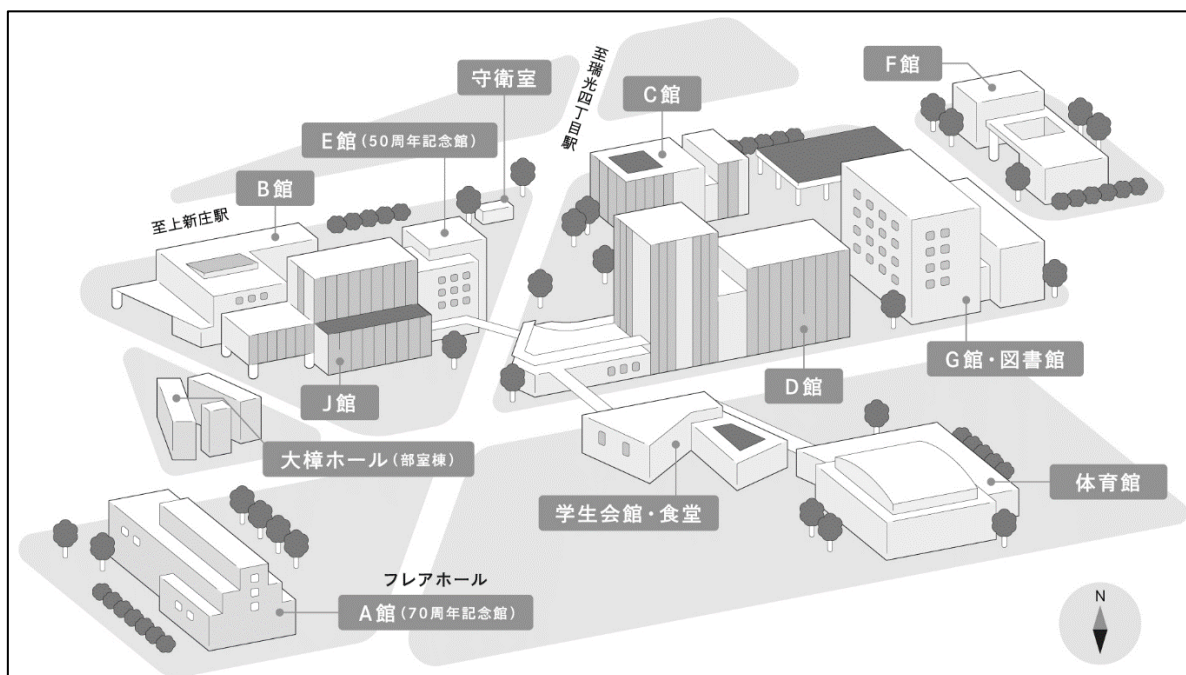
- 「大阪」から「大阪経大前」バス停までバスで 40 分
- 「大阪梅田」から「上新庄」まで電車で約 13 分＋徒歩約 15 分
- 「京都」から「上新庄」まで電車で約 36 分＋徒歩約 15 分
- 「京都河原町」から「上新庄」まで電車で約 40 分＋徒歩約 15 分
- 「神戸三宮」から「上新庄」まで電車で約 37 分＋徒歩約 15 分
- 「なんば」から「瑞光四丁目」まで電車で約 28 分＋徒歩約 2 分
- 「京橋」から「瑞光四丁目」まで電車で約 15 分＋徒歩約 2 分

## 大隅キャンパス周辺マップ



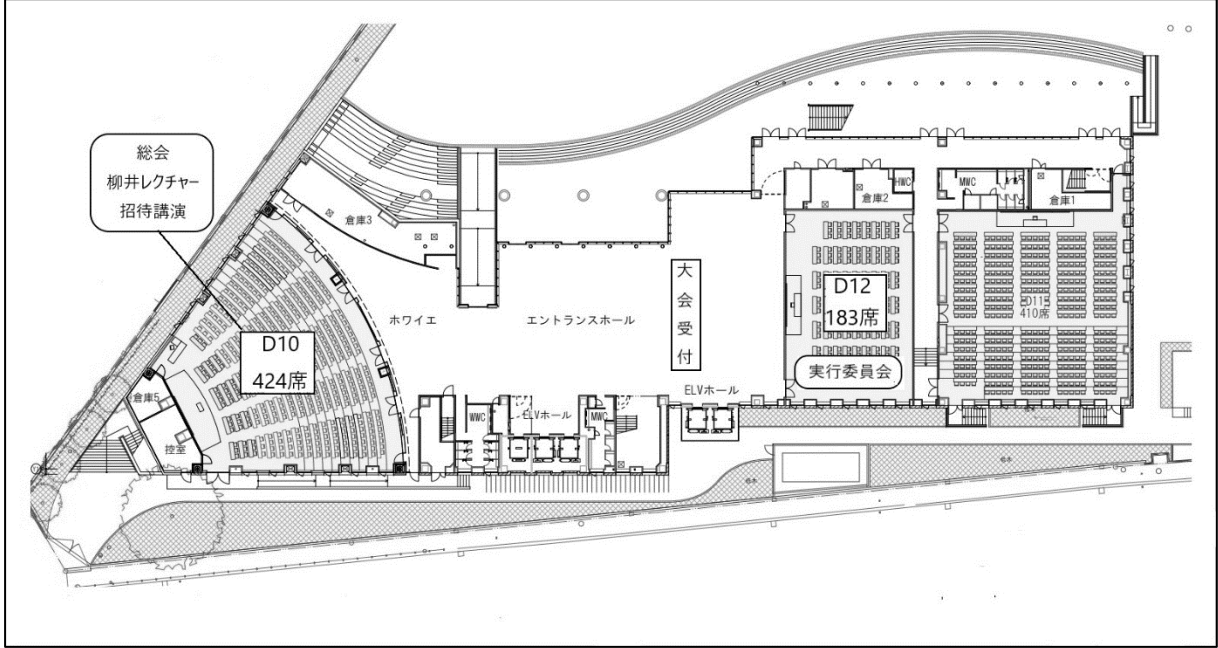
## 大阪経済大学大隅キャンパスマップ

第52回大会は、大隅キャンパスのD館で行います。

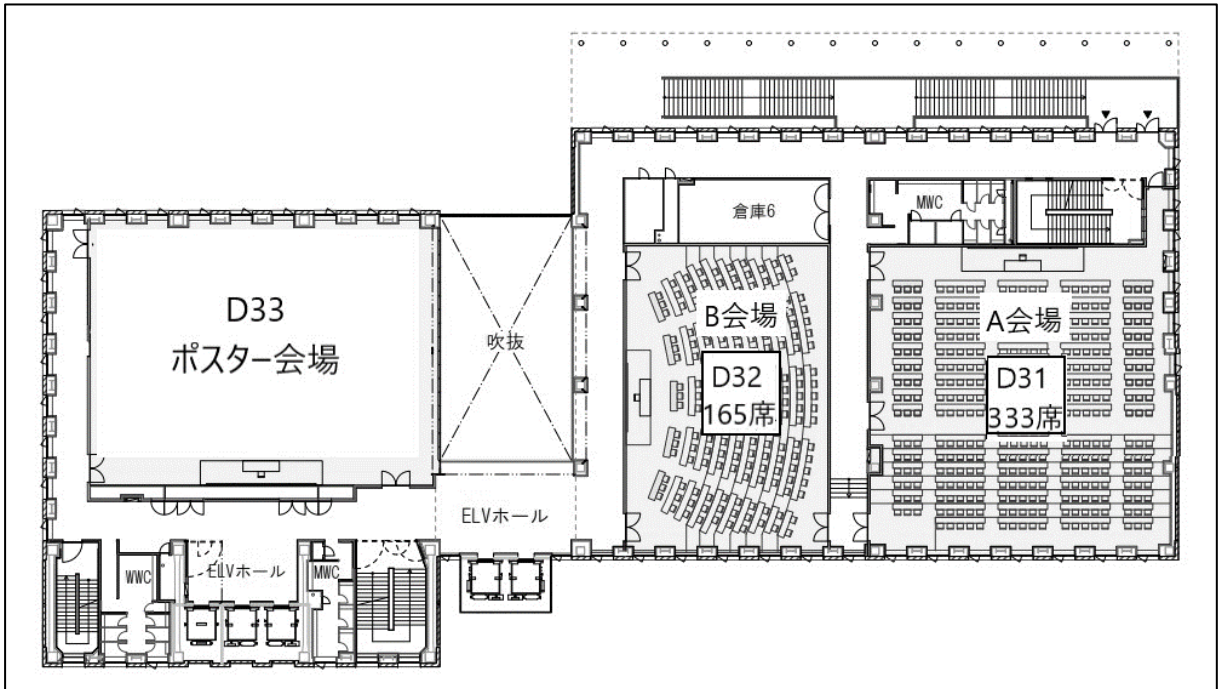


# 会場見取り図

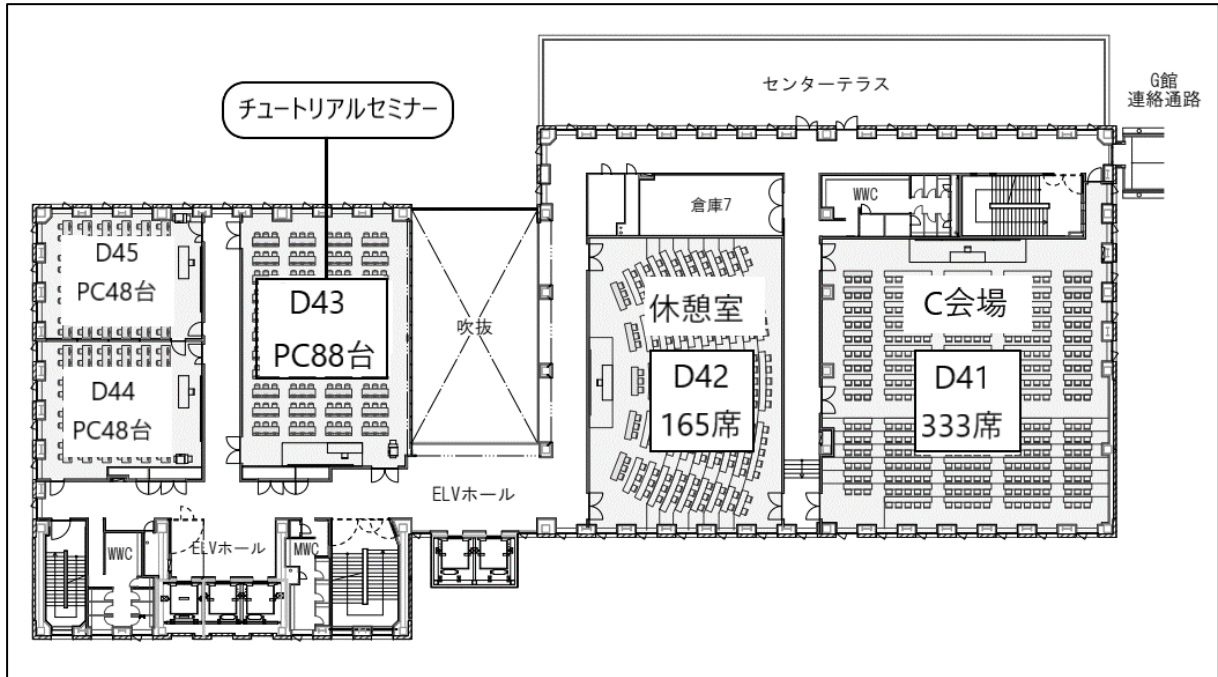
## D 館1階



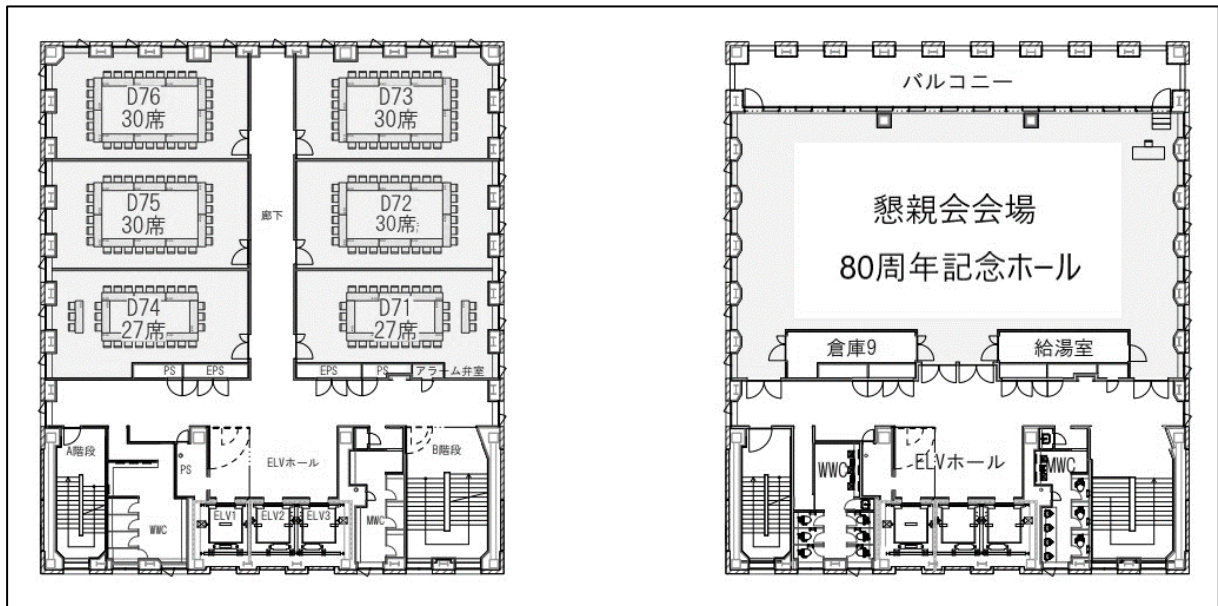
## D 館3階



D 館4階



D 館7階／D 館8階





# プログラム

9月10日(火)	
	チュートリアルセミナー
12:00	受付開始
12:30 ～ 15:30	テーマ A タイトル: 関係データ解析のためのノンパラメトリックベイズ法 講師: 上田 修功 先生 (理化学研究所 革新知能統合研究センター) 会場: 大阪経済大学 D 館 4 階 D43 教室 (補助教室: D44 教室、D45 教室)
16:00 ～ 19:00	テーマ B タイトル: 調査における質問と回答の科学 講師: 木村 邦博 先生 (東北大学 名誉教授) 会場: 大阪経済大学 D 館 4 階 D43 教室 (補助教室: D44 教室、D45 教室)

9月11日(水)			
	A 会場: D31 教室	B 会場: D32 教室	C 会場: D41 教室
9:30	受付開始		
10:00 ~ 12:00	特別セッション	一般セッション	一般セッション
	顧客体験理解のための マーケティング1	認知・心理	行動経済 / 計量経済
昼休み			
13:00 ~ 15:00	特別セッション	特別セッション	特別セッション
	顧客体験理解のための マーケティング2	渡辺ベイズの学習係数	犯罪現象の行動計量 1
15:20 ~ 17:20	一般セッション	特別セッション	特別セッション
	マーケティング	多様な非対称データ解析の 理論と応用の融合による 探求	犯罪現象の行動計量2

9月12日(木)			
	A会場:D31 教室	B会場:D32 教室	C会場:D41 教室
9:00	受付開始		
9:30～ 11:30	一般セッション	特別セッション	特別セッション
	調査・データ収集	生体情報と データサイエンス(DS)の 融合	Advances in quantitative approaches to sociological issues
11:50～ 12:50	総会(ランチミーティング) D館1階 D10 教室		
13:00～ 15:00	ポスターセッション D館3階 D33 教室		
15:20～ 16:20	特別講演「第8回柳井レクチャー」 タイトル:調査的思考:「データを生み出す創意工夫」と「限界の認識」 講演者:松田映二(YORONresearch/元・朝日新聞社、元・埼玉大学) D館1階 D10 教室		
16:40～ 18:10	招待講演 タイトル:A review of recent developments of discrete latent variable models applied to social science data 講演者:Fulvia Pennoni (Department of Statistics and Quantitative Methods, University of Milano-Bicocca) D館1階 D10 教室		
18:30～ 20:30	懇親会 D館8階 80周年記念ホール		

9月13日(金)			
	A会場:D31 教室	B会場:D32 教室	C会場:D41 教室
9:00	受付開始		
9:30～ 11:30	特別セッション	一般セッション	特別セッション
	心理学におけるモデリング アプローチの展開 VI(1)	心理/他	世論調査・社会調査の 実践的課題
昼休み			
12:30～ 14:30	特別セッション	一般セッション	一般セッション
	心理学におけるモデリング アプローチの展開 VI(2)	教育	社会1
14:50～ 15:50	特別セッション	一般セッション	一般セッション
	比較型心理測定の 統計モデルと尺度構成技術	数学・統計	社会2

9月10日(火) 12:30-15:30

9月10日(火)12:30-15:30 D館4階D43教室(補助教室D44,D45教室)  
チュートリアルセミナーA(180分)  
関係データ解析のためのノンパラメトリックベイズ法

講師: 上田 修功 先生 (理化学研究所 革新知能統合研究センター)

前半講義「ノンパラメトリックベイズ法」

後半講義「関係データ解析への応用」

9月10日(火) 16:00-19:00

9月10日(火)16:00-19:00 D館4階D43教室(補助教室D44,D45教室)  
チュートリアルセミナーB(180分)  
調査における質問と回答の科学

講師: 木村 邦博 先生 (東北大学 名誉教授)

前半講義「データの質の観点から見た測定誤差と satisficing」

後半講義「実験的ウェブ調査による回答スタイル研究の実際」

9月11日(水) 10:00-12:00

9月11日(水)10:00-12:00 A会場(D31 教室)  
特別セッション(120分) 顧客体験理解のためのマーケティング1

オーガナイザー,司会者:土田 尚弘(麗澤大学)

オーガナイザー,討論者:中山 厚穂(東京都立大学大学院)

オーガナイザー,討論者:鶴見 裕之(横浜国立大学大学院)

S21A-1

CSRとCSIR(企業の社会的無責任行動)が消費者のブランド態度に与える影響の検証

○土田 尚弘(麗澤大学)

S21A-2

インテリアデザインの選択行動についての一考察

○小代 禎彦(TOTO株式会社)

S21A-3

新しい社会サービスシステムの社会受容性評価手法の提案

○小口 裕(株式会社プラグ), 大澤 幸生(東京大学大学院), 関口 海良(東京大学大学院), 伊藤 宏比古(日本電気株式会社), 石川 開(日本電気株式会社), 津田 健一郎(日本電気株式会社)

S21A-4

社会的認知と市場創造の定量分析

○金 勝鎮(大阪経済法科大学), 多田 伶(横浜国立大学), ○海 ぶん(大阪大学大学院), 勝又 壮太郎(大阪大学)

9月11日(水)10:00-12:00 B会場(D32教室)

一般セッション(120分) 認知・心理

座長:大森 拓哉(杏林大学)

C21B-1 10:00~10:20

数理モデルを用いた自我漏洩感の特異性の検討

非言語的な漏洩相に着目して

○久野 瑞季(東京大学大学院), 若井 大成(東京大学大学院), 宇佐美 慧(東京大学大学院)

C21B-2 10:20~10:40

クラスター分析を用いた反復学習における事象関連電位の実験日内変動と実験日間変動

○船田 眞里子(白鷗大学), 船田 忠(株式会社藤掛商店)

C21B-3 10:40~11:00

事象関連電位の類似度による課題反復時の脳活動の変化(2)

戦略別計算課題と正答率を用いて

○渋川 美紀(白鷗大学), 船田 眞里子(白鷗大学)

C21B-4 11:00~11:20

評定項目への反応ルールの個体差

実データとシミュレーション・データに基づく検討

○村上 隆(中京大学文化科学研究所)

C21B-5 11:20~11:40

Chernoff face graph の印象評価

○大森 拓哉(杏林大学)

C21B-6 11:40~12:00

写真の視覚認知に対する画像深層学習の新たな地平

タグ付け不要学習の進展

○大森 宏(東京大学大学院), 羽生 和紀(日本大学)

9月11日(水)10:00-12:00 C会場(D41教室)

一般セッション(120分) 行動経済/計量経済

座長:竹村 和久(早稲田大学)

C21C-1 10:00~10:20

VRを用いた実験研究による社会同調ナッジの効果の二重過程理論からの理解

○西村 大雅(慶應義塾大学・理研 AIP センター), 植月 健太(慶應義塾大学大学院),  
浅川 香(三菱電機株式会社情報技術総合研究所), 陳 薇雅(三菱電機株式会社情報  
技術総合研究所), 星野 崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP センター)

C21C-2 10:20~10:40

時間の使用に対する心理会計理論の適用可能性に関する実証研究

○談 佳純(慶應義塾大学), 星野 崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP センター)

C21C-3 10:40~11:00

分割時系列デザインによる消費財の価格変更が販売量に与える影響の考察

○篠原 正裕(株式会社インテージ), 道菅 公太郎(株式会社インテージ)

C21C-4 11:00~11:20

多属性意思決定における決定方略の数理的性質と計算機シミュレーション

パレート最適の観点から

○竹村 和久(早稲田大学), 玉利 祐樹(静岡県立大学), 井出野 尚(東京理科大学)

C21C-5 11:20~11:40

複数種類 GPS データを活用したオルタナティブデータによる経済指標のパフォーマンス  
予測

○中北 誠(理化学研究所), 西村 大雅(慶應義塾大学), 星野 崇宏(慶應義塾大学・  
理化学研究所)

9月11日(水) 13:00-15:00

9月11日(水)13:00-15:00 A会場(D31教室)  
特別セッション(120分) 顧客体験理解のためのマーケティング2

オーガナイザー,司会者:土田 尚弘(麗澤大学)

オーガナイザー,討論者:中山 厚穂(東京都立大学大学院)

オーガナイザー,討論者:鶴見 裕之(横浜国立大学大学院)

S22A-1

広告受容性の要因分析—心理的リアクタンス理論によるアプローチ

○河原 達也(株式会社ビデオリサーチ), ○土田 尚弘(麗澤大学)

S22A-2

ロイヤルティプログラムの分析:努力の有無を考慮した報酬の効果

○松井 暉(横浜国立大学), 寺本 高(中央大学), 本橋 永至(横浜国立大学), 鶴見 裕之(横浜国立大学)

S22A-3

オピニオンダイナミクスによるマーケティング・シミュレーションの試み

○藤居 誠(城西国際大学)

S22A-4

満月による交通事故増加の検証

日本の救急搬送データベースからの解析

○田久 浩志(国士舘大学大学院)

9月11日(水)13:00-15:00 B会場(D32教室)  
特別セッション(120分) 渡辺ベイズの学習係数

オーガナイザー,司会者:鈴木 譲(大阪大学大学院)

S22B-1

渡辺ベイズ超入門

○鈴木 譲(大阪大学大学院)

S22B-2

学習係数の定義とその導出例

○車谷 優樹(大阪大学大学院)

S22B-3

ニューラルネットワークと渡辺ベイズ

縮小ランク回帰の学習係数

○久保田 理士(大阪大学大学院)

S22B-4

学習係数を数値的に求める方法をいくつか

○瀧尾 竜佳(大阪大学大学院)

S22B-5

学習係数の推定とsBICへの応用

○今井 徹(株式会社 lambda hat)



9月11日(水)13:00-15:00 C会場(D41教室)

特別セッション(120分) 犯罪現象の行動計量1

オーガナイザー,司会者:平間 一樹(科学警察研究所)

オーガナイザー,司会者:島田 貴仁(科学警察研究所)

討論者:小島 隆也(早稲田大学)

討論者:藤田 政博(関西大学)

討論者:宮木 幸一(東京大学)

#### S22C-1

クラス均等評価指標を考慮した機械学習モデルによる犯人像推定法及び分析結果表示法の検討

○井元 大輔(科学警察研究所), 平間 一樹(科学警察研究所), 黒沢 健至(科学警察研究所), 櫻井 航(科学警察研究所), 浅野 雅人(科学警察研究所), 本間 正勝(科学警察研究所), 古橋 健悟(科学警察研究所), 大塚 祐輔(科学警察研究所), 横田 賀英子(科学警察研究所), 渡邊 和美(科学警察研究所)

#### S22C-2

ひったくり犯の犯行特徴と犯人像推定

○小野 修一(山口県警察本部科学捜査研究所)

#### S22C-3

犯行特徴の出現率に着目した事件リンク分析の基礎検討

○平間 一樹(科学警察研究所), 横田 賀英子(科学警察研究所), 大塚 祐輔(科学警察研究所), 古橋 健悟(科学警察研究所), 渡邊 和美(科学警察研究所), 井元 大輔(科学警察研究所)

#### S22C-4

VRを用いた性犯罪被害防止教室

○原田 章(追手門学院大学)

#### S22C-5

日本における不審者の外見的特徴と言動

Web上の大規模データを用いた検討

○佐名 龍太(岐阜県警察本部刑事部科学捜査研究所・名古屋大学大学院), 五十嵐 祐(名古屋大学大学院)

9月11日(水) 15:20-17:20

9月11日(水)15:20-17:20 A会場(D31教室)  
一般セッション(120分) マーケティング

座長:尾崎 幸謙(筑波大学大学院)

C23A-1 15:20~15:40

アパレル商材における消費者の購買チャネル選択に関する研究

○橋口 貴(筑波大学大学院), 尾崎 幸謙(筑波大学大学院)

C23A-2 15:40~16:00

テレビ広告の広告効果に対する消費者の消費価値観の特徴

テレビ広告の効果に対する消費者属性の影響の多角的検討

○粟國 晴楽(東京理科大学大学院), 朝日 弓未(東京理科大学)

C23A-3 16:00~16:20

接客が顧客満足度を与える効果と個人特性の関係性分析

ー実験的調査による検討ー

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○徐 慶揚(大阪経済大学大学院)

C23A-4 16:20~16:40

Eコマースにおける消費者知覚価値の非線形性に関する研究

○正呂地 稔(筑波大学大学院), 尾崎 幸謙(筑波大学)

C23A-5 16:40~17:00

購買順序データを用いた店舗内購買行動におけるライセンシング効果の検証

○増田 夏樹(慶應義塾大学大学院・理研 AIP センター), 星野 崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP センター)

C23A-6 17:00~17:20

チャットボットは業績のよい人間の性格特性を模倣できるか

○茶木 正史(筑波大学大学院), 尾崎 幸謙(筑波大学大学院)

9月11日(水)15:20-17:20 B会場(D32教室)

特別セッション(120分)

多様な非対称データ解析の理論と応用の融合による探求

オーガナイザー,司会者:中山 厚穂(東京都立大学大学院)

S23B-1

Extension of Stevens' definitions of the four scales to the multidimensional case

○千野 直仁(Chino Institute for the Studies of Asymmetry and Chaos)

S23B-2

分位点ノルムに基づく非対称 MDS におけるベイズ推定について

○土田 潤(京都女子大学), 宿久 洋(同志社大学)

S23B-3

外部データを用いた変数選択を伴う非対称多次元尺度構成法について

○谷岡 健資(同志社大学), 宿久 洋(同志社大学)

S23B-4

非対称クラスター分析法を用いた GPS データの分析

—神奈川県足柄下郡箱根町における観光行動—

○横山 暁(青山学院大学), 有馬 貴之(横浜市立大学)

S23B-5

広告におけるブランド混同と差別化のメカニズムの解明

○中山 厚穂(東京都立大学大学院)

9月11日(水)15:20-17:20 C会場(D41教室)

特別セッション(120分) 犯罪現象の行動計量2

オーガナイザー,司会者:島田 貴仁(科学警察研究所)

オーガナイザー:平間 一樹(科学警察研究所)

討論者:宮木 幸一(東京大学)

討論者:藤田 政博(関西大学)

討論者:小島 隆也(早稲田大学)

S23C-1

高齢者の特殊詐欺被害防止に関する研究と実践

○上野 大介(京都女子大学)

S23C-2

再犯防止をめぐる市民の意識についての検討

○竹中 祐二(摂南大学)

S23C-3

商業施設の駐輪場における自転車の施錠促進

○谷口 友梨(滋賀県立大学)

S23C-4

近隣防犯活動への参加が住民の意識・行動に与える影響

「あいさつ・声掛け・鍵掛け運動 チャレンジ“絆”」の効果検証

○草尾 祐樹(奈良県警察), 齋藤 知範(科学警察研究所), 山根 由子(科学警察研究所), 高木 大資(東京大学), 大山 智也(東京大学), 島田 貴仁(科学警察研究所)

S23C-5

エビデンスに基づく政策形成(EBPM)のための実証基盤

英米における犯罪政策のエビデンスセンターと日本での課題・方向性

○島田 貴仁(科学警察研究所)

9月12日(木) 9:30-11:30

9月12日(木)9:30-11:30 A会場(D31教室)  
一般セッション(120分) 調査・データ収集

座長:小野 滋(株式会社インサイトファクトリー)

C31A-1 9:30~9:50

Web調査における共通選択肢方式と個別選択肢方式の特性比較

○松田 瑞希(横浜市立大学大学院), 橋本 実咲希(横浜市立大学大学院), 土屋 隆裕(横浜市立大学大学院)

C31A-2 9:50~10:10

web調査における刺激への適応的割付と母集団特性の推定

○小野 滋(株式会社インサイトファクトリー)

C31A-3 10:10~10:30

“新インタビューア”としての音声認識調査アプリは、面接調査に代わることができるか?

—音声疑似対面型調査システムの実用可能性についての実験調査—

○朴 堯星(統計数理研究所), 前田 忠彦(統計数理研究所), 持橋 大地(統計数理研究所)

C31A-4 10:30~10:50

標本抽出型ウェブ調査の回答率の変容について

○吉村治正(奈良大学社会学部), 正司哲朗(奈良大学社会学部)

C31A-5 10:50~11:10

係留ビネット法における仮想人物の呈示法の違いが回答に与える影響

項目反応モデルによる検討

○清水 友貴(名古屋大学大学院・日本学術振興会), 上田 臯介(名古屋大学大学院・日本学術振興会), 石井 秀宗(名古屋大学大学院)

C31A-6 11:10~11:30

多肢強制選択型心理測定 of 回答負荷を軽減するための項目提示法

○分寺 杏介(神戸大学), 杉山 剛(リクルートマネジメントソリューションズ)

9月12日(木)9:30-11:30 B会場(D32教室)

特別セッション(120分) 生体情報とデータサイエンス(DS)の融合

オーガナイザー,司会者:松本 龍彦(大阪大学)

オーガナイザー:狩野 裕(同志社大学)

**S31B-1**

潜在曲線モデル(LCM)を用いた下肢筋活動とアキレス腱生体信号の縦断データ分析

アキレス腱から発せられる微細振動の正体を追って

○松本 龍彦(大阪大学・株式会社村田製作所)

**S31B-2**

2型糖尿病患者の内臓脂肪指数と骨格筋量との関連

○藤沢 千春(四国医療専門学校)

**S31B-3**

潜在曲線モデルを用いた健康情報データの分析

体組成と運動のデータ間の関連性についての事例報告を中心に

○大橋 洸太郎(文教大学)

**S31B-4**

SEM 及びデータサイエンスと生体情報

LDA, LCA, and ILD

○狩野 裕(同志社大学・大阪大学)

9月12日(木)9:30-11:30 C会場(D41教室)

特別セッション(120分)

Advances in quantitative approaches to sociological issues

オーガナイザー,司会者:中井 美樹(立命館大学)

**S31C-1**

Analysis of two-mode three-way asymmetric data on the relationships between cultural activities

○岡太 彬訓(立教大学), 横山 暁(青山学院大学)

**S31C-2**

Facets in High School Students' Image of the Japanese Society

○木村 邦博(東北大学)

**S31C-3**

Measuring Occupational Distance Using the Position Generator Method

○林 拓也(奈良女子大学)

**S31C-4**

Difficulties Faced by Young Women in Tokyo

○脇田 彩(お茶の水女子大学)

**S31C-5**

Examining the response heterogeneity of survey questions by latent class analysis

The case of generalized trust question

○金澤 悠介(立命館大学)

**S31C-6**

Gendered work-family pathways over the life course

A comparison through hidden Markov models

○中井 美樹(立命館大学), Pennoni Fulvia (University of Milano-Bicocca)

9月12日(木) 11:50-12:50

9月12日(木)11:50-12:50 D館1階 D10教室  
総会(60分) ※ランチミーティング形式で実施

9月12日(木) 13:00-15:00

9月12日(木)13:00-15:00 D館3階 D33教室  
ポスターセッション(120分)

座長:田中 健吾(大阪経済大学経営学部)

P01

昆虫食普及のためのターゲットセグメント選定基準の検討

○NGUYEN DUC TAM(大阪経済大学大学院), 芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

P02

非対称なリンク関数に基づく因果媒介分析手法の提案

○坪田 有司(大阪大学), 山本 倫生(大阪大学)

P03

女性リーダーのジレンマ

リーダー的特性と女性的特性

○鎌田 りん(筑波大学大学院), 尾崎 幸謙(筑波大学大学院)

P04

Integrating power analysis and accuracy in parameter estimation

A unified approach to sample size planning in quantitative research

○鄭 澈(国立台湾大学), 徐 永豊(国立台湾大学)

P05

深層学習自動採点技術と項目反応理論に基づく非等質母集団の等化を通じた記述式  
回答の高精度評価手法

○荒巻 洸太(電気通信大学), 宇都 雅輝(電気通信大学)

P06

アジア諸国における宗教的価値観が主観的幸福度に及ぼす影響の比較

○石橋 拳(専修大学大学院)



P07

正方分割表における divergence 型尺度に基づく非対称度の視覚化

○浦崎 航(東京理科大学大学院), 中川 智之(明星大学), 田畑 耕治(東京理科大学)

P08

日本語版リスク認知評価尺度の心理測定学特性

リスク認知の2因子モデルの適用と検証

○佐野 海士(奈良先端科学技術大学院大学), 萩島 大凱(奈良先端科学技術大学院大学), 炭谷 知純(国際電気通信基礎技術研究所), 田中 沙織(国際電気通信基礎技術研究所)

P09

株価予測に対する党派性の影響の検証

○大村 華子(京都大学大学院)

P10

二値型項目反応信号検出モデルのギブスサンプリング

○板宮 拓巳(プロメトリック株式会社)

P11

項目反応理論による安全運転態度尺度の開発

○金内 さよ(科学警察研究所), 岡村 和子(科学警察研究所), 荘島 宏二郎(大学入試センター), 小嶋 理江(名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所), 小菅 律(自動車安全運転センター), 中野 友香子(科学警察研究所), 藤田 悟郎(科学警察研究所)

P12

質問回答サイトにおける共感に注目した質問分類

母親向けサイト「ママリ」と「Yahoo!知恵袋」の比較

○羽鳥 なの香(青山学院大学大学院), 岩永 二郎(株式会社エルデシュ), 横山 暁(青山学院大学)

P13

裨益者アドヒアランスに対する援助モダリティの影響の検証計画

ウガンダでの家庭内飲料水浄化支援を例に

○三上 了(愛媛大学)

P14

女子中高生のオンライン行動に対する保護者介入の効果

非巡回的有向グラフによる回帰モデルの共変量選択に関する一考察

○宮寺 貴之(科学警察研究所), 藤原 佑貴(科学警察研究所), 久原 恵理子(科学警察研究所)

P15

ファッションとシェアリングに関する消費者意識

○吉田 綾(国立環境研究所)

P16

社会的加速理論に基づく時間意識尺度の作成

○真鍋 公希(中京大学)

P17

潜在変数の測定結果とその因果構造における変容

○深瀬 澄(大阪経済法科大学), 庄 豊源(社会人)

P18

インターンシップへの参加が学生の意識に与える影響 1

○萩生田 伸子(埼玉大学), 山本 和美(山梨大学教育統括機構キャリアセンター)

P19

Big Five 尺度の自己評定・他者評定と社会的望ましさ反応の関連

○谷 伊織(愛知学院大学)

P20

Can Estimating Communalities Really Enhance Parallel Analysis?

○堀 一輝(熊本県立大学)

9月12日(木) 15:20-16:20

9月12日(木)15:20-16:20 D館1階 D10教室  
特別講演「第8回柳井レクチャー」(60分)

司会者: 吉野 諒三 (同志社大学)

タイトル: 調査的思考:「データを生み出す創意工夫」と「限界の認識」

講演者: 松田映二 (YORONresearch/元・朝日新聞社、元・埼玉大学)

9月12日(木) 16:40-18:10

9月12日(木)16:40-18:10 D館1階 D10教室  
招待講演(90分)

司会者: 中井 美樹 (立命館大学)

タイトル: A review of recent developments of discrete latent variable models applied to social science data

講演者: Fulvia Pennoni (Department of Statistics and Quantitative Methods, University of Milano-Bicocca)

9月12日(木) 18:30-20:30

9月12日(木)18:30-20:30 D館8階 80周年記念ホール  
懇親会(120分)

9月13日(金) 9:30-11:30

9月13日(金)9:30-11:30 A会場(D31 教室)

特別セッション(120分) 心理学におけるモデリングアプローチの展開 VI(1)

オーガナイザー,司会者:小杉 考司(専修大学)

司会者:清水 裕士(関西学院大学)

司会者:武藤 拓之(大阪公立大学)

S41A-1

視空間イメージ変換課題の反応時間を説明する混合分布モデルの数理的性質

○武藤 拓之(大阪公立大学)

S41A-2

Contextual bandit task を用いた学習と意思決定の計算論モデリング

○塚村 祐希(東京大学大学院)

S41A-3

ドメインに特化した意味空間を用いた潜在意味尺度構成法の妥当性

○小林 美月(専修大学大学院), 野村 圭史(東洋大学), 小杉 考司(専修大学)

S41A-4

自由記述回答の飽和率推定における潜在意味分析を用いた分類と評定者による分類との比較

○上村 大地(専修大学), 小杉 考司(専修大学)

9月13日(金)9:30-11:30 B会場(D32教室)

一般セッション(120分) 心理/他

座長:森 一将(千葉大学国際未来教育基幹)

C41B-1 9:30~9:50

観光魅力度尺度の作成および信頼性と妥当性の検討

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○濱田 蒼(大阪経済大学), 宮井 七瑠(大阪経済大学)

C41B-2 9:50~10:10

観光魅力度尺度による観光地評価

—静岡東部地域の評価事例—

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○宮井 七瑠(大阪経済大学), 濱田 蒼(大阪経済大学)

C41B-3 10:10~10:30

浮世草子におけるトピックの変遷

○上阪 彩香(大阪成蹊大学)

C41B-4 10:30~10:50

共同学校事務室のアンケート調査に基づくリーダーシップの研究

—クラスター分析を用いた各職層からみたリーダーシップの分析—

○大橋 利昭(白鷗大学), 張 承玖(白鷗大学), 船田 眞里子(白鷗大学)

C41B-5 10:50~11:10

録画型採用面接における妥当性と影響要因の分析

○森 一将(千葉大学国際未来教育基幹), 渋井 進(大学改革支援・学位授与機構), 大江 朋子(帝京大学), 高木 幸子(常磐大学)

9月13日(金)9:30-11:30 C会場(D41教室)

特別セッション(120分) 世論調査・社会調査の実践的課題

ー各種調査モードにおける未回答バイアスとその周辺

オーガナイザー,司会者,討論者:吉野 諒三(同志社大学)

S41C-1

面接調査・WEB調査・郵送調査における未回答バイアスについて

○吉野 諒三(同志社大学)

S41C-2

Web調査における回答バイアスの検出方法の一検討

○鄭 躍軍(同志社大学), 王 喆珺(同志社大学大学院), 吉野 諒三(同志社大学社会調査研究センター)

S41C-3

林知己夫と標本抽出調査

○森本 栄一(同志社大学文化情報学部), 林 文(東洋英和女学院大学名誉教授), 吉野 諒三(同志社大学文化情報学部)

S41C-4

WEB調査データに基づく環境配慮行動の影響要因の分析

○陳 艷艷(福岡工業大学), 林 文(東洋英和女学院大学), 角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

9月13日(金) 12:30-14:30

9月13日(金)12:30-14:30 A会場(D31 教室)

特別セッション(120分) 心理学におけるモデリングアプローチの展開 VI(2)

オーガナイザー,司会者:小杉 考司(専修大学)

司会者:清水 裕士(関西学院大学)

司会者:武藤 拓之(大阪公立大学)

S42A-1

多次元展開法を用いた多値バイクラスタリングモデルの提案

○小杉 考司(専修大学), 荘島 宏二郎(大学入試センター), 清水 裕士(関西学院大学)

S42A-2

社会的態度の測定とベイズ多次元展開法

○清水 裕士(関西学院大学), 三浦 麻子(大阪大学大学院), 小林 哲郎(早稲田大学)

S42A-3

罰システムが導入・廃止される社会的ジレンマ状況での意思決定データを統計モデリングで再分析する

○水野 景子(関西学院大学), 清水 裕士(関西学院大学)

S42A-4

非正常環境下の経験的意思決定モデルの構築

—忘却とリスク回避を含めたベイズ推論モデル—

○星野 匠映(関西学院大学), 清水 裕士(関西学院大学)

S42A-5

持続可能な選択率の変動—現世代と将来世代への行動比較とモデルからの検討—

○三木 毬菜(関西学院大学), 清水 裕士(関西学院大学)

9月13日(金)12:30-14:30 B会場(D32教室)

一般セッション(120分) 教育

座長:宮澤 芳光(独立行政法人大学入試センター)

C42B-1 12:30~12:50

強化学習に基づくデータ価値推定法を利用した問題横断型小論文自動採点

○柴田 拓海(電気通信大学大学院), 宇都 雅輝(電気通信大学大学院)

C42B-2 12:50~13:10

誤答選択枝カスケード分析における二値カスケードの解釈容易性に関する基礎的検討

困難度・識別力・当て推量およびテストレット効果に着目して

○寺尾 尚大(独立行政法人大学入試センター)

C42B-3 13:10~13:30

学力調査における出題順の項目パラメータに対する影響について

○袈岩 晶(国立教育政策研究所)

C42B-4 13:30~13:50

共通テストの受験番号マーク誤りと受験時間の関係

○橋本 貴充(独立行政法人大学入試センター)

C42B-5 13:50~14:10

ダイナミックアセスメントシステムにおける傾向スコアを用いた年度間比較による評価

○宮澤 芳光(独立行政法人大学入試センター), 堤 瑛美子(法政大学), 植野 真臣(電気通信大学)



9月13日(金)12:30-14:30 C会場(D41教室)

一般セッション(120分) 社会1

座長:上田 雅夫(横浜市立大学)

C42C-1 12:30~12:50

自治体が作成するスマホ用アプリを利用する人の特性

—ICT利用のライフスタイル研究—

○水野 一成(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 飽戸 弘(東京大学名誉教授)

C42C-2 12:50~13:10

ふるさと納税およびクラウドファンディング型ふるさと納税の利用動機

クラウドファンディング研究の視点からの実寄付者データを用いた分析

○本多 将大(慶應義塾大学・理研 AIP センター), 星野 崇宏(慶應義塾大学・理研 AIP センター)

C42C-3 13:10~13:30

夫の在宅勤務と家事・育児分担の関連

妻の規範意識による交互作用

○及川 怜(常磐大学)

C42C-4 13:30~13:50

スマートフォン利用時間の増減の要因

—ICT利用のライフスタイル研究—

○小島 誠也(株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所), 飽戸 弘(東京大学名誉教授)

C42C-5 13:50~14:10

個人の幸福の変化に関する要因

健康を維持することの重要性

○上田 雅夫(横浜市立大学), 白石 小百合(横浜市立大学)

C42C-6 14:10~14:30

確率的潜在意味解析による生活者の類型化とベイジアンネットワークによる主観的幸福感の要因分析

○佐々木 奈菜子(筑波大学), 柿本 直勇(筑波大学), 齋藤 彩(筑波大学), 櫻井 瑛一(産業技術総合研究所), 本村 陽一(産業技術総合研究所)

9月13日(金) 14:50-15:50

9月13日(金)14:50-15:50 A会場(D31教室)

特別セッション(60分) 比較型心理測定 of 統計モデルと尺度構成技術

オーガナイザー, 司会者, 討論者: 岡田 謙介(東京大学大学院)

オーガナイザー, 討論者: 分寺 杏介(神戸大学大学院)

オーガナイザー, 討論者: 野村 圭史(東洋大学)

討論者: 丹 亮人(東京大学大学院)

討論者: 清水 裕士(関西学院大学)

討論者: 小杉 考司(専修大学)

S43A-1

比較型心理測定 of 統計モデルと尺度構成技術

○岡田 謙介(東京大学大学院), ○分寺 杏介(神戸大学大学院), ○丹 亮人(東京大学大学院), ○野村 圭史(東洋大学), ○清水 裕士(関西学院大学), ○小杉 考司(専修大学)

9月13日(金)14:50-15:50 B会場(D32教室)

一般セッション(60分) 数学・統計

座長: 荘島 宏二郎(大学入試センター)

C43B-1 14:50~15:10

独自因子得点を用いた重回帰分析

○橋本 翔(西南学院大学)

C43B-2 15:10~15:30

ピアソンの積率相関係数とヒッチコック輸送問題

○荘島 宏二郎(大学入試センター)

C43B-3 15:30~15:50

同時対応分析の行列分解因子分析型パラメータ推定

○牧野 直道(大学入試センター)

9月13日(金)14:50-15:50 C会場(D41教室)

一般セッション(60分) 社会2

座長: 本村 陽一(産業技術総合研究所)

C43C-1 14:50~15:10

COVID-19 パンデミックが日本での結婚状況に与えた影響

パネル調査からの検証

○高橋 義明(明海大学)

C43C-2 15:10~15:30

日本における緊急事態宣言の PCR 陽性者数と感染死亡者数に対する Granger 因果性

○濱田 悦生(大阪工業大学)

C43C-3 15:30~15:50

看護師個人の業務量がインシデントの発生に与える影響の検証

○塚越 祐太(筑波大学大学院), 尾崎 幸謙(筑波大学)

# 日本行動計量学会第52回大会

主催：日本行動計量学会第52回大会実行委員会

於：大阪経済大学大隅キャンパス

開催日：2024年9月10日～13日

## ○ 実行委員会

大会実行委員長

芳賀 麻誉美（大阪経済大学）

大会副実行委員長

田中 健吾（大阪経済大学）

山本 倫生（大阪大学大学院）

実行委員〔五十音順〕

大森 拓哉（杏林大学）

岡田 華奈（大阪経済大学）

勝又 壮太郎（大阪大学大学院）

高原 龍二（大阪経済大学）

玉利 祐樹（静岡県立大学）

分寺 杏介（神戸大学大学院）

武藤 拓之（大阪公立大学大学院）

## ○ 協賛（2024年7月22日現在）

アイブリッジ 株式会社

一般社団法人 中央調査社

一般社団法人 ピープルアナリティクス&HR  
テクノロジー協会

株式会社 インテージ

株式会社 日本リサーチセンター

編集：日本行動計量学会第52回大会実行委員会

発行：日本行動計量学会